令和6年度 第3回 流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会 議事録

1 日時

令和7年3月21日 金曜日

14時00分から15時30分まで

2 会場

流山市地域福祉センター（ケアセンター）第1・2研修室

3 出席者

(1) 委員

濱田 竜也 会長、香山 雄斗 副会長、鈴木 美智子 委員、雨澤 慎悟 委員、高村 友紀 委員、新井 祐介 委員、櫻井 壽一 委員、平 航人 委員、池上 諄一 委員、紺野 好美 委員、横山 章子 委員、国府 雅子 委員、藤田 知久 委員、岩井 謙詞 委員、楠見 洋子 委員

(全16名中15名出席)

(2) 事務局（市）

伊原健康福祉部長兼高齢者支援課長

高齢者支援課 武林課長補佐、杉岡高齢者介護予防係長、小畑主事、小山保健師

介護支援課 岩井課長、竹之内課長補佐、三宅介護地域支援係長、金子主任主事、西澤主事

4 議題等

(1) 【報告事項】「流山市地域包括支援センターの職員の変更」について

ア (事務局より説明) 資料1のとおり

イ 事前質問・意見

(事務局) 岩井委員より、「北部西の職員の異動が多い様に見受

けられます。また、年間を通して7月が動きすぎているようにも思いますが、何か問題がありましたか。職員さんにも事情がある事と思いますが、保健師さんなどの着任が先にある中でのみ在職者が離任されていることについて、職場のモラルの点では如何なものですか。」との御意見をいただいた。また、紺野委員より、「北部西の職員定着についてセンター発足後、センター長以外の職員が度々変わり、毎年の様に改善をお願いしてきましたが、なされていない様に思われます。年々、高齢者が増加し、抱える課題も複雑化しているものが多い地域です。「何故」定着しないのか？を早く改善してほしいです。」との御意見をいただいた。

また、櫻井委員より、「事業所の業務は大変なことと思いますが何かと支障なきよう検討してほしいと思う。」との御意見をいただいた。

北部西地域包括支援センターに確認したところ、職員の定着を促すために職員が職務を深く理解し、やりがいをもって職務遂行すること・職員への精神的なフォローアップ・福利厚生 of 適切な利用の推進が職員定着に繋がると考えており、

- ・研修の充実等の人材の育成
 - ・声掛けなどを積極的に行い、職員間の信頼関係を築くことで、困りごとの相談しやすい雰囲気を作ること
 - ・介護休暇、育児休暇の積極的な利用により仕事との両立ができるように提案し定着を促す等の福利厚生面の充実等
- に取り組んでいるとのこと。

また、市としても、各地域包括支援センター職員を対象としたカスタマーハラスメント対策研修等を実施し、包括職員の負担の軽減と職員一人ひとりの資質向上を図っている。

離職時における対応については、引継ぎの書類を作成し、全ケースの動きを職員全員で共有しているとのこと。市民の皆様には何かと影響がないよう引継ぎを行うため、新任者の着任後に在職者が離任をすることが多い状況となっているとのこと。

(2)【協議事項】令和7年度流山市地域包括支援センター運営方針(案)について

ア(事務局より説明)資料2のとおり。令和6年度第4回運営協議会で指摘があった、1ページ目の“中核機関として設置”記載、2ページ目の“中核的機関である”との記載を中核的機関に統一した。

イ 事前質問・意見

(事務局)濱田会長より「包括も重層の窓口の一つであることを強く意識していただきたいため、5ページのア総合相談(ウ)『重層的支援体制整備事業と連動し』という文言を『重層的支援体制整備事業の包括的相談支援事業の窓口の一つとして』に変更してはどうか」との御意見をいただいた。

地域包括支援センターは、重層的支援体制整備事業において、相談者の属性、世代、相談内容にかかわらず包括的に相談を受け止める包括的相談支援事業の一機関として位置づけられていることから、より主体的に重層的支援体制整備事業と連携を図る必要があるため、ア総合相談(ウ)『重層的支援体制整備事業と連動し』という文言を『重層的支援体制整備事業の包括的相談支援事業の一機関として』に変更する。

(3)【報告事項】「流山市地域包括支援センターの職員に係る基準等を定める条例の一部改正」について

ア(事務局より説明)資料3-1・3-2のとおり。

イ 事前質問・意見

(事務局より説明)高村委員より、「常勤換算について、旧と新の計算方法の違いについてご説明いただけたらと存じます」との御意見をいただいた。

改正前においては、常勤職員を配置することとなっているため、非常勤職員を配置しても人員としてカウントされず欠員扱いとなっていた。改正後については、常勤換算方法が可能となるため、非常勤職員も含めた当該地域包括支援センターの職員の勤務延べ時間数を当該地域包括支援センターにおいて常勤の職員が勤務す

べき時間数で除することにより、当該地域包括支援センターの職員の員数に換算することが可能となる。

(4)【協議事項】「指定地域密着型サービス事業所の指定更新及び廃止」について

ア（事務局より説明）流山市での、地域密着型サービス事業所の指定更新に関する運営協議会の役割については、1ページ目項目1「指定更新に関する運営協議会の役割」のとおり。今回更新を予定している事業所は全部で3事業所。

1つ目の事業所は2ページ目記載の「流山市北部西包括支援センター」。指定を受けているサービスは、「介護予防支援」で、運営法人は「社会福祉法人あかぎ万葉」。指定更新年月日は、令和7年4月1日を予定している。

事業所の人員として、管理者1名、担当職員4名が在籍しており、人員基準を満たしている。

運営指導は令和6年12月18日に事業所にて実施し、概ね適正な運営がされていることを確認した。改善が必要となる指導内容等は、3ページの表のとおり。

2つ目の事業所は4ページ目記載の「だんらんの家南流山」。指定を受けているサービスは「地域密着型通所介護」で、運営法人は「エムケービジネスサポート株式会社」。指定更新年月日は、令和7年5月1日を予定している。

事業所の人員として、管理者1名、生活相談員3名、看護職員2名、介護職員7名、機能訓練指導員1名が在籍しており、人員基準を満たしている。

運営指導は令和7年1月27日に実施し、概ね適正な運営がされていることを確認した。

その他、改善が必要となる指導内容等は、5ページの表のとおり。

3つ目の事業所は6ページ記載の「りはびり空間スコヤカ・ケア松ヶ丘店」。指定を受けているサービスは「地域密着型通所介護」で、運営法人は「日本メディカルケアマネジメント株式会

社」。指定更新年月日は、令和7年4月1日を予定している。事業所の人員として、管理者1名、生活相談員2名、看護職員2名、介護職員3名、機能訓練指導員4名が在籍しており、人員基準を満たしている。

運営指導は令和7年2月6日に実施し、概ね適正な運営がされていることを確認した。

その他、改善が必要となる指導内容等は、7ページの表のとおり。

指定の廃止を予定している事業所について

事業所は「アンジュカ初石定期巡回・随時対応型訪問介護看護」。指定を受けているサービスは「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」で、運営法人は「医療法人社団曙会」。令和7年3月31日をもって指定の廃止を予定。理由としては、夜間帯の緊急コール対応等に携わることのできる職員の確保及び黒字化に向けた経営が困難であるとのこと。なお、今回廃止となる事業所では、利用者が1名いたが、同法人内の別の介護サービスに引き継いでおり、利用者へのサービス提供が滞ることはないとのこと。

この廃止をもって市内には同サービスの事業所が2つとなるが、今後の同サービス事業所の整備に関しては関係機関等へ調査を行い検討していく。

イ 事前質問・意見

（楠見委員）定期巡回サービスについて、夜間等頻回な訪問をしてほしいというニーズは非常に高いように思う。独居の方も増えてくる中で今後さらにニーズは高まることが考えられるので今後もよく検討していただきたい。

（伊原健康福祉部長）市としても当該サービスの需要について把握しており、必要性についても認識している。この認識の上で今後解決策について検討していく。

5 その他

次回の令和7年度第1回運営協議会は、令和7年5月30日(金)
午後2時から市役所301・302会議室にて開催予定。